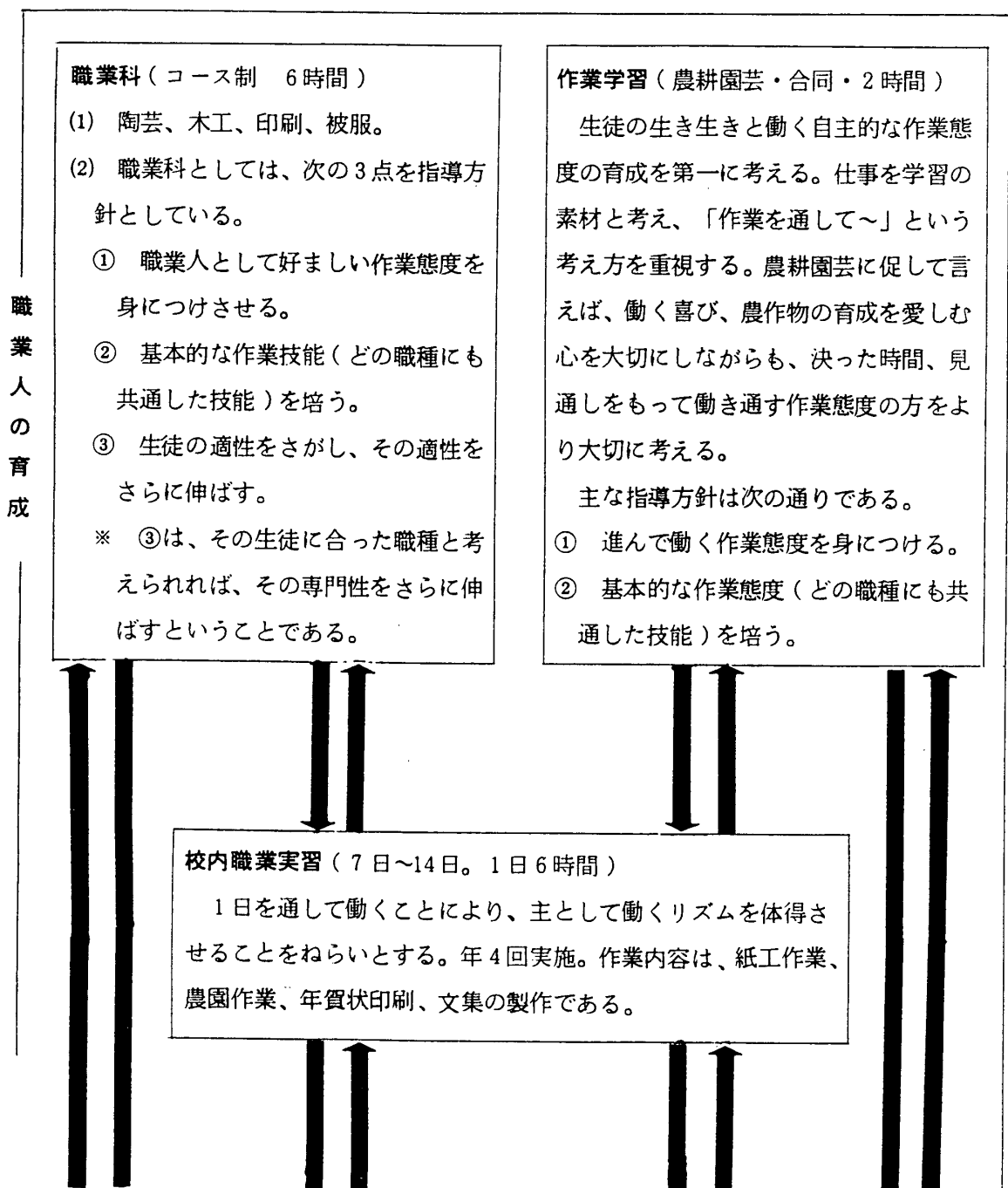


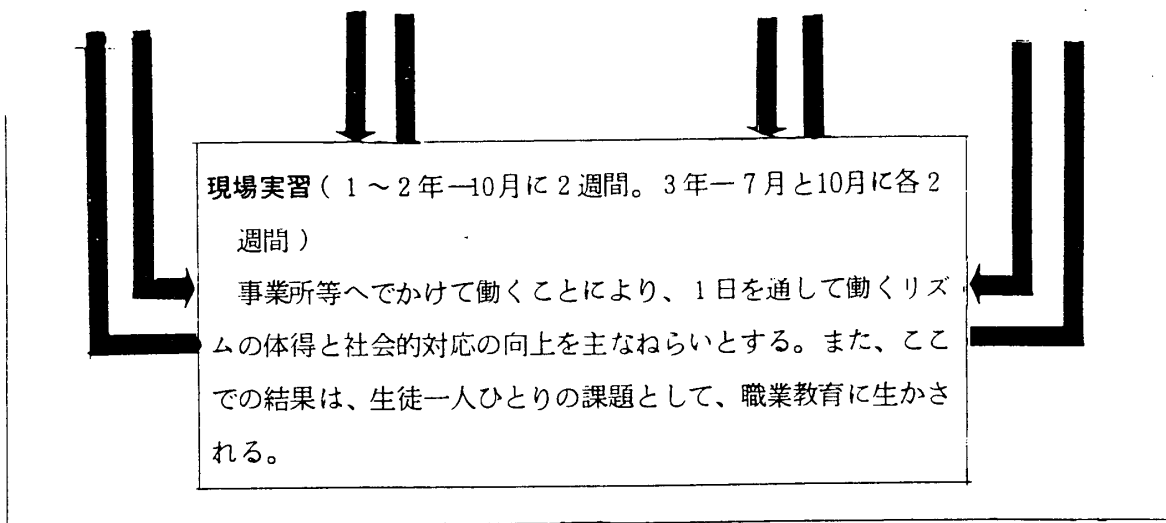
〔2〕 本年度の取り組み

(1) 高等部の教育課程

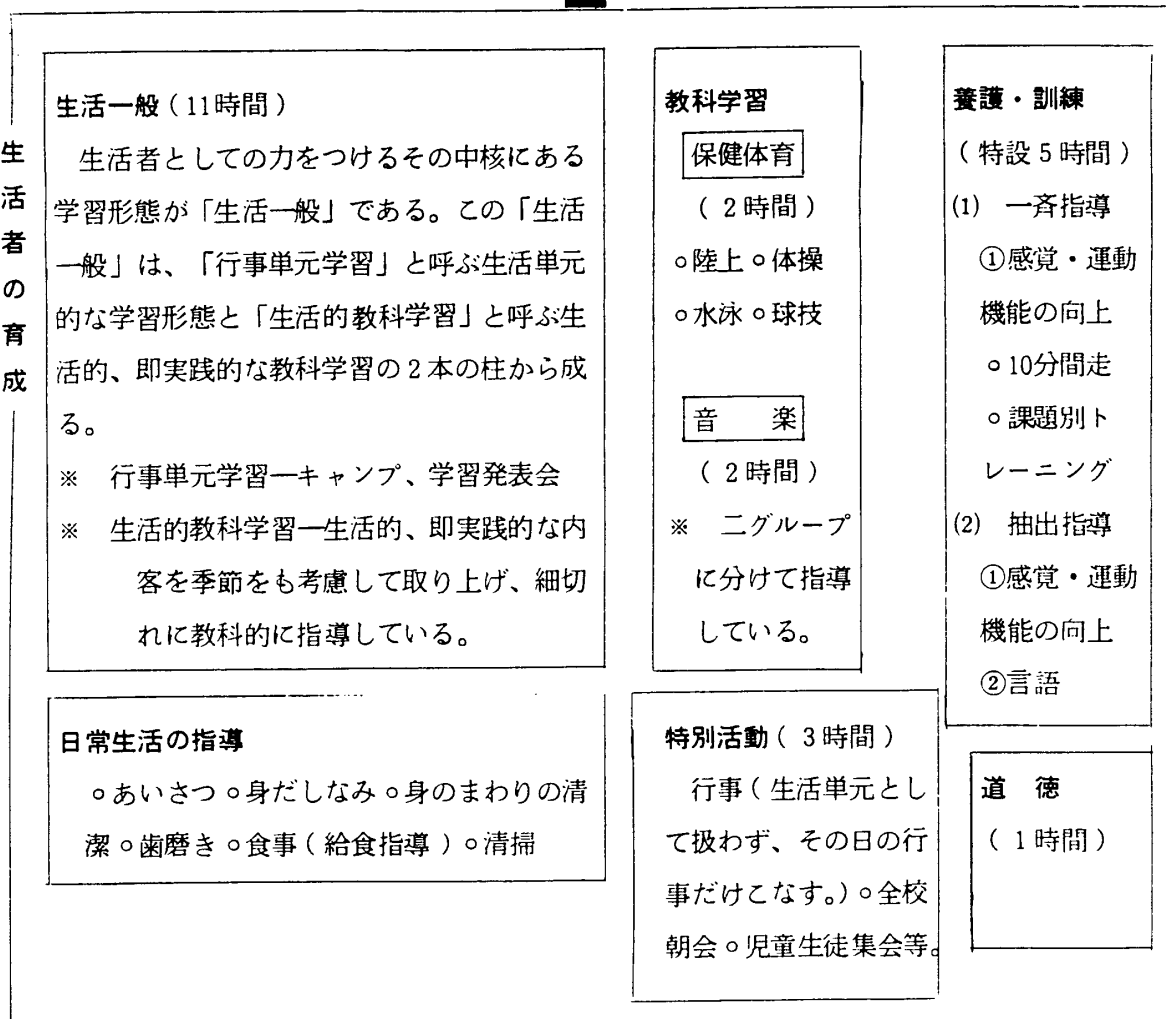
高等部のめざす教育方針「自ら学ぶ気力あふれた子」と唱った生徒の姿を大切にしながら、生徒一人ひとりの実態に応じた社会的自立、すなわち、段階別教育内容表のⅣ～Ⅵ段階の拡充をめざして、次のように高等部の教育課程を編成し、指導計画をたて、日々の実践に取り組んできた。

図1 高等部の教育課程





高等部のめざす生徒像「自ら学ぶ気力あふれた子」



※（ ）内の時間数は、週あたりのものを示している。

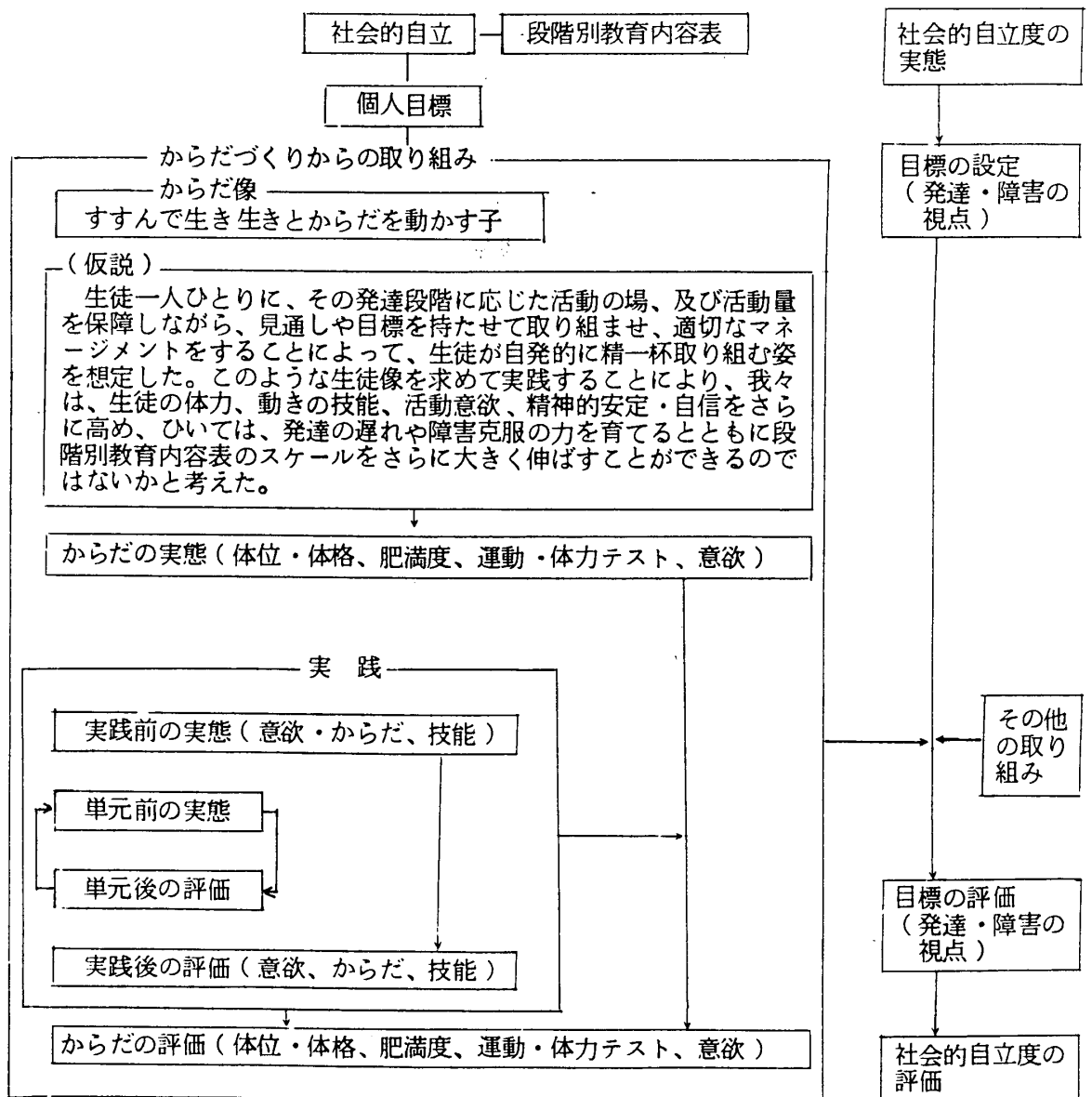
(2) 高等部の研究の構想

本年度は、「からだづくり」を運動場面からだけの取り組みではなく、生活場面（生活一般、職業科、作業学習、現場実習）も研究実践の場に取り入れ、研究を進めた。運動場面で培ったからだ、生活場面でどう生かされたか。また、生活場面での取り組みが、からだにどう反映されたかも追求しようとした。

そこで、小学部や中学部の研究成果等も期待し、高等部の研究テーマを「すすんで生き生きとからだを動かす子」と設定した。

さらに、次のような高等部の「研究の構想」を考え、研究実践をすすめた。

図2 高等部研究の構想図



(3) 実践の場及びねらいと内容

からだ像「すすんで生き生きとからだを動かす子」の育成の場として、運動場面（以下実践Aとする）と、生活場面（以下実践Bとする）を取りあげた。運動場面と生活場面の取り組みが総合的に働いてこそめざすからだ像に迫ることができると考えたのである。

A 運動場面でのからだづくり

- 保健体育科、養護・訓練を通してのからだづくり

保健体育科では、ねらいとして、① 運動経験を少しでも増やし、身体を動かすことの喜びやその運動の楽しさを味わう、② 運動経験を積み重ね、運動技能の向上と運動機能の促進を図る、を掲げている。具体的な内容は、基本の運動、陸上、水泳、なわとび、球技等である。

養護・訓練では、10分間走をすることで、①筋力、全身持久力・心肺機能の向上、を図ること。② 走ることの意識の向上や日々の努力の積み重ねの大切さ、競争心、粘り強さを体得すること、をねらっている。また課題別トレーニングでは、① 微細運動を巧みに行うための大筋群の協応性を形成すること。

② 平衡感覚機能の向上。③ 筋力強化と運動量の増加による肥満の軽減等をねらい、内容は、チューブひき、トランポリン、ジャングルジム、丸太わり等である。

B 生活場面でのからだづくり

(ア) 楽しい活動を通してのからだづくり（行事単元学習—キャンプ、学習発表会）

- 行事単元学習（高等部では行事をテーマに据えた総合学習をこう呼んでいる。）のキャンプを通して、生徒が集団の中で友だちとかかわりあい、楽しんで行事に取り組み、生き生きと活動する態度や意欲を育てることをねらったのからだづくりである。

(イ) 労働を通してのからだづくり（職業科、作業学習、校内職業実習、現場実習）

- ここでのからだづくりは、労働を通して、意欲の向上や実践的な態度の育成をねらったのからだづくりである。① 働くことの大切さを知り、働くことに対する気力・意欲を高め、働く意識をもたせる。② 人とかかわりあいを大切に、基本的な行動様式を身につけ、好ましい社会的対応ができるようにする。③ 作業に必要な基本的技能や知識の習慣を図るため、反復的な練習によって身体諸機能の発達を促すことをねらっている。

(ウ) 知的学習を通してのからだづくり（保健体育科、家庭科）

ここでは、特に、単なる知識の注入ではなくて、即生活につながるような経験や体験を内容の中心としている。

- 保健体育科の「保健」の分野では、将来にわたって自分の健康を管理し、増進していくための知識や実践の具体的方法を身につけさせることをねらい、内容は、からだのしくみ、体重計や体温計の計り方等である。
- 家庭科の「食物」の分野では、食生活を主体的に管理し、健康の保持・増進が少しでもできるようになることをねらい、内容は、食生活の現状、栄養素の種類とその主な働き、三つの基礎食品群の分類、簡単な調理の仕方等である。